

# 医学研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学（病院）では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の医学研究を実施しています。

患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために患者さん本人の試料・情報を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。

研究課題名	アルコール性肝障害における血清糖鎖欠損トランスフェリン(CDT)測定の意義
研究機関名	金沢医科大学
研究責任者	金沢医科大学 肝胆膵内科学 助教 福村 敦
研究期間	倫理審査委員会承認後 ～ 2020年 3 月 31日
対象者	①アルコール性肝障害患者さん 30名 ： 1日の飲酒量が日本酒換算3合以上でかつ肝機能異常を認める方。 ②お酒を全く飲まないC型肝炎患者さん 30名
当該研究の意義・目的	【背景】お酒を飲まれている患者さんで上昇する血液データとしては、 $\gamma$ -GTP（ガンマ-GTP）が有名ですが、お酒を飲んでいても $\gamma$ -GTPが上昇しない方が約10-20%います。このような $\gamma$ -GTPが上昇しない患者さんでも血液中のCDTが上昇していることがあり、CDTと $\gamma$ -GTPとを両方測定することで、お酒を飲んでいるかがよりはっきりすることが報告されています。なお、CDTとは、糖鎖欠損トランスフェリン(carbohydrate-deficient transferrin)のことで、欧米では昔から飲酒のマーカーとして用いられており、日本においても2016年に認可されました。 【目的】血液中のCDTがアルコール性肝障害における飲酒量の指標なのか、肝臓の病状(重症度)を反映しているのかを明らかにすることを目的とします。
方法および研究で利用する試料・情報について	アルコール性肝障害患者さんと、お酒を全く飲まないC型肝炎患者さんを対象とします。電子カルテ等の診療録から情報収集し、採血でCDTを測定します。また、肝生検を受けた患者さんにおいては、肝臓の組織をCDTに対する特殊な方法にて顕微鏡で調べます。 【収集する情報】年齢、性別、疾患名、BMI、1日飲酒量、積算飲酒量、AST、ALT、 $\gamma$ -GTP、CDT等
外部への資料・情報の提供	他施設へは提供しません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学 肝胆膵内科学 助教 福村 敦 住所：石川県河北郡内灘町大学1-1 ☎：（代表）076-286-3511（2211）内線（5453）

作成日： 2018年8月27日